

学校だより10月号



# 寺尾小だより



<学校教育目標>「自ら進んで 学ぶ子 仲よくする子 きたえる子」

<10月の生活目標>「落ち着いてしっかり学習しよう」

川越市寺尾979-2 TEL 049-245-9555 FAX 049-240-1765

川越市立寺尾小学校

令和3年9月30日(木)

## 通常日課開始～離れすぎても 近づきすぎても～

校長 長澤 誠

「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉のように、季節の移り変わりを体感しています。稲穂が黄金色に染まり、実りの秋を感じます。新型コロナウイルスの感染拡大防止措置も今週で終わり、いよいよ来週から通常の学校生活に戻ります。措置期間中には、感染症対策はもとより、分散登校やオンライン授業等へのご協力をいただき、ありがとうございました。今後も拡大防止対策を続けます。引き続きご協力をお願いいたします。

さて、「ソーシャルディスタンス」が言われて久しいですが、先日気付いた、それに関連する話です。家の前の電線に、先月の中頃からスズメが何十羽もとまるようになってきました。それも両羽を広げて並んだかのように、みんな同じ間隔で並んでいるのです。最近では、車にフン害が目立ち、“他にいてくれないか”と思っていました。私は、追い払おうとして2階のベランダから「パン！」と手を叩きました。スズメ達は一斉に飛び立ちましたが、道路の反対側の電線に同じような間隔でとまりました。そこで、今一度、その電線の下で手を叩きました。すると、また別の電線に同じような間隔でとまるのです。不思議に思って調べてみると、「等間隔に並ぶ理由として、一羽ずつ自分の空間(パーソナルスペース)が決まっていて、お互いにそれを尊重するルールが本能として備わっている」とのことでした。そう言われてみると、ムクドリやハト等も同じような行動をとっています。その結果、群れで生活していても争いや喧嘩にならない、いわゆる「生きていくための知恵」が生まれながらに備わっているのです。



では、私達はどうでしょうか? 「離れすぎていると寂しいけど、近づきすぎても少し嫌だなと感じる」ことはありませんか? 単に距離が近いという事だけでなく、人の気持ちを考えずに自分の考えを押しついたり、思ったことをよく考えないで言ってしまうたりすると、トラブルになることがあります。私達にも、「人との適切な距離感」があるのですが、それは本能的に備わっているのではなく、**集団生活を通して、感じ取っていく、学び取っていくものだと**感じています。家族をはじめ、友達や先生との関わり合いを通して、自分なりの距離感や相手に応じた距離感を身に付けていくのではないのでしょうか。そう考えると、トラブルは成長に必要なモノなのかも知れません。

今後も学校生活ではソーシャルディスタンスが必要です。分散登校中は、午前登校の子達が午後登校の子達にジェスチャーで語りかけていたり、アイコンタクトをとっていたりする姿から、“**物理的な距離は離れていても、心の距離は近い**”ということを感じました。今週は久しぶりに学級が集まり、楽しそうに生活する様子がみられました。来週から通常日課となります。今できる環境の中で、最大限の教育効果が上がるよう工夫して取り組んでいきます。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。